

## 黎明紙第352号御研鑽

明主様が、かつて日比谷公会堂におきまして御光話下さいました時の後半部分の御録音を拝聴させていただきます。

前半におきまして、明主様は、これから愈々神様が地上天国、昼の世界、あるいは真の文明世界、全ての人が真に救われた幸せな文明世界である地上天国を創造される時期になってきたと御教え下さっております。また別の御

表現では、今までは比較的悪が支配的であった世の中でございましたけれども、それが愈々善が支配的な世の中になってくるということでございます。

さらに、生命の安全が確保された、そういう素晴らしい世界を、これから神様が創造していかれるとも御教え頂いたわけでございます。従いまして私共人間はその素晴らしい、美しい世界に相応しい魂を持った人間に一人一人がなっていかなければいけないということを仰ったわけでございます。

その前半の御教えに引き続きまして、後半の部分におきましては、これから神様が地上天国を創造していかれます時に、それと同時に霊界がだんだん明るくなってくると御教え下さっております。「明るくなる」ということは、だんだん霊界が浄まってくるということでございます。従って私共人間の魂も、その浄まった美しい霊界に相応しくなっていかなければいけないわけでございます。

そういう時期が愈々近付いたということを経世の中の人々、世界中の人々に一日も早く知らせて、そして一人残らずの人間が、そういう素晴らしい世の中に生かさせていただくお許しが頂けるようにならなければいけないということをお願いしています。

そしてこの御講話の最後の締め括りとして「ノアの方舟」、これは旧約聖書にあるわけでございますけれども、そのノアの方舟を喩えにひかれるわけでございます。明主様は、ここで御教え下さいましたことを、今自分が言っても、ちょうどノアの方舟の時と同じように、誰も信じないかもしれないけれども、これは本当の事なんだと仰るわけでございます。ですから、何とか皆がその事に目

覚めてほしいと仰って、最後の締め括りをして下さるわけでございます。

なおこの中で人名として「徳川さん」がさっき話したということ、霊界のことをちよつと仰るわけでございますけれども、これは徳川夢声さんの事でありまして、日比谷公会堂で明主様がお話下します前に、徳川夢声さんがご自分の体験談を話されたわけで、それを指しておられます。それからもう一人「鈴木さん」と仰る方がご自身の体験談をお話されたわけで、それを受けて明主様は御教え下さっているわけでございます。

明主様が、この後半部分でお話下さいましたように、これからだんだん霊界が明るくなっていく、だんだん霊界が浄まった、大変良い世の中になっていくわけでございます。

す。一方で、前半の部分の御教えでは、これからだんだん善の勝った、善の支配的な、そういう世の中になっていくということ、それから病気、貧乏、争いというような苦しみが根本から解決された、つまり生命の安全が確保された、そういう素晴らしい世の中を、これから神様は創造していかれる時期が々切迫しているということ、仰っておられたわけでございます。

先達ても申し上げましたように、明主様の説かれました数々の御神書の中で、ここで御教え下さっておりますことが一番根幹をなしているわけであります。そういう地上天国という世界が近付いているから、その素晴らしい地上天国、霊界が明るい、そういう美しい世の中に相應しい魂の人間に、今のうちに一人一人がなっていかなければいけない

いということでございます。そのために、今まで行ってきた間違ったことについての悔い改めを明主様は私共に勧告して下さっているわけでございます。

もちろん今までにも心の美しい、魂の清まった方もたくさんおられたわけでしょうけれども、私共、大部分の者は、やはり神様に背き、また神様の御心に反したことをたくさんしてきているわけです。これはもちろん、私共は靈界と現界の間を何回も往復しているわけですから、この今世だけの事ではなくて、前世、あるいは前々世、あるいはさらに前々々世、それ以前の事も、全て含まれるわけです。その間、私共人間は、神様の御心に反したこともたくさんしてきているわけでありまして、そういうことを心から悔い改めて、これから神様の御心に叶った魂の人間に

ならせていただくという気持ちを強く持たせていただいた時に初めて、神様は私共の一切のそういう誤りを許して下さり、これからの素晴らしい地上天国に永遠に残して下さいるわけでございます。

もちろん神様は全ての人間を救おうとして下さっているわけです。けれども人間の方がそういう神様の御心に叶うようにならせていただくという気持ちにならなければ、神様は大変に悲しまれるわけです。その結果、そういう気持ちにならない人間は地上天国に残していただけないことになってしまうわけです。

実際考えてみますと、現在の私共のように、ただ自分だけ良ければ良いと考えたり、他人が少しぐらい苦しんでいてもいいというような心の持ち主ばかりが集まっていたの

では、いくら世の中を良くしようと思っても、良くはならないわけです。やはり私共一人一人が、神様の御心に叶った魂の人間にならせていただいて初めて、この世に地上天国が創造されていくわけでございます。

この地上天国の創造ということは、私共にとって大変に喜ばしい、嬉しいことでございます。けれども、一方において私共は、そういう美しい、素晴らしい世界に相応しい人間になるように、これから努力していかなければいけないということでもあるわけです。

ところで、どうすることが神様の御心に叶うことなのかということとは、明主様の御教えの一言一句の中に込めて下さっているわけでございます。ですから、その明主様のお説き下さいました御教えに、私共の行いが一つ一つ添って



いくことで、誰しもが永遠に御救い頂ける道を進ませているだけなのでございます。その事を明主様は、説き明かして下さっているわけでございます。

神様の御心に叶う一番根本として、明主様が何時も仰っておられますように、まず人間は誰しもが、誠、利他愛という気持ちにならなければいけないということでございます。神様の御心は、世の中の全ての者が救われることでございます。その事を神様は望んでおられるわけです。ある限られた者だけが幸せでいいということではないわけですし、神様は全世界の全ての人々が幸せになることを望んでおられるわけです。従って私共も、その神様の御心に少しでも近寄らせていただかなければいけないわけでございます。

最近はだんだん、世間一般でも、世界の人々、人類全体の幸福ということが言われ出してきているわけですし、これは大変喜ばしいことだと思います。

私共はどちらかと申しますと、現在世界的な目から見れば、かなり恵まれた境遇にあると申し上げても良いと思うのでございます。現在、世の中には、まだまだ色々な形で苦しんでいる方がたくさんおられるわけです。そういう世の中の方々が幸せになれるように、全ての方々が神様のこの御救いの綱に掴まらせていただかれるようにさせていただくことが、先ず私共にとって最も大切なことではないかと思うのでございます。

そのために、これは前半の部分で明主様が仰っておられたわけでありましても、明主様は先ず、『文明の創

造」の御神書を頂点とする神様の御救いの御教え、真理の御教えを一日も早く全世界の人々に知らせてほしいということを抑っているわけでございます。この後半の御録音の中でも明主様は「可哀想だからと言うので、この事を知らせると、知らせて助けなければならぬと言うのが、神様の御意志であると。で、私は神様に、それを命ぜられた。そして、ま、こうしてお知らせするわけなのです」『人を救うには早く、大勢の人に、それを耳に入れなければならぬ』と2回も抑っておられます。こういうことを自分言うと、大それたことのように、自分としては辛いんだけど、その事を言わなければ、世の中の人々が救われないから、だから一日も早く大勢の人にこの事を伝える、先ずそ

の第一歩として、このお話をしたんだということを仰っておられるわけです。

日比谷公会堂において、当時、今から三十年前に、初めて世間一般の方を対象に、こういうお話を明主様はされたわけでございます。これがさらに拡大して、いよいよ私共の周囲の方々、さらにはもう一歩進んで全世界の方々に、この事を伝えるということが、神様の一番の御意志であるわけでございます。一日も早く大勢の人に、この事を先ず知らせなければいけないということでございます。

私共は、明主様のこの御教えを世の中の方々にお伝えさせていただく、先ずその第一歩を踏み出させていただくわけでございます。

その御教えと同時に、私共は神様の御救いの御光、御力を頂いているわけでございます。神様は、私共だけではなくて、世の中、全ての人々を救おうとされる御心の現れとして、この御浄霊の御力、神様の御救いの御力のお取次ぎを、私共にお許し下さっているわけでございます。

私共の頂いておりますこの御守様については、今まで何回も申し上げていることでございます。この御守様を通して、もちろん私共自身も神様は守って下さいますけれども、それだけではございません。この尊い御守様一体一体には、この世の中の全ての人々が救われるようにという神様の御心が込められているわけでございます。その御守様を私共は胸に頂いているわけでございます。

その神様の御心の現れとして、私共はいつ何時でも、またいかなる所においても、この神様の御光をお取次ぎさせていただくことができるわけでございます。この御光を、これから一人でも多くの方々にお取次ぎさせていただき、またこの御救いの御教えを一人でも多くの方々にお伝えさせていただくということを、これから一生懸命させていただきたいと思ひます。

これから神様は色々な形でもって御神業を進めていかれると思ひます。また私共一人一人に、色々なお役を与えて下さると思ひるのでございます。その時に、私共は、それぞれの与えていただいた使命を十分に全うさせていただきたいわけです。もちろんこの黎明教会にも神様は多くのお役割、使命を与えて下さっていると思ひるのでございます。神

様から賜りましたそれぞれの使命を十分に果たさせていた  
だいて、そして一日も早く、世の中の全ての方々が神様の  
御救いのもう綱に掴まらせていただかれまして、本当に素  
晴しい地上天国が創造されるように、一人一人が努力させ  
ていただきたいと思っています。

一人一人の力というのは大変細やかでありますし、個人  
個人は色々な壁にぶつかる場合もあると思います。そうい  
う時には、お互い手を取り合って、助け合って進ませたい  
ただきたいと思っています。助け合うと申しまして、ただ表  
面的な安易なことではなくて、もっともっと深く大きい、  
神様の愛の御心に少しでも近寄らせていただいて、進ませ  
ていただきたいと思うわけでございます。これからの年月  
が「本当に素晴らしい年月であった」というようにお互いに

喜ばせていただけるように、これから努力させていただきたいと思います。

（一九八二年一月一日）